

対話から  
未来が生まれる

もういちど、

自然や歴史から

# わがまち、竹原 を考えよう



わたしたちのまち、竹原はどのように発展してきたのか

興味のある方、ぜひご参加ください

- 竹原のことをもっと知りたい
- わがまちの魅力を再発見して、もっと、まちの活性化に活用したい
- 子どもに伝えたい、竹原のこと

参加費  
無料

各回 定員  
15名様

日時  
&  
場所

2017年

2月25日(土) 竹原商工会議所大会議室(予定)

2月26日(日) 忠海公民館(予定)

第1部

9:00~ 12:00

**まちあるき**

ファシリテーターと一緒に、みなさんでわがまち、竹原を見て歩きます。  
いつもは見慣れたはずの風景にも、きっと新しい発見や出会いがあります。

第2部

13:00~ 16:00

**実践！哲学対話**

まちあるきで見たこと、発見したモノをみなさんで共有して、わがまちの  
魅力について語り合います。

哲学ファシリテーター：上智大学 寺田俊郎先生

哲学対話ってなに???

人々は昔から、経験の中から様々なことを学んできました。哲学ファシリテーターの進行に合わせて、見たこと、感じたことを深く考えてみようという対話の方法です。欧米を中心に、こうした哲学的思考方法を現代の生活に役立てようとする活動が広まっています。対話の中から新しい発想を引き出す取り組みとして注目されています。

## <ファシリテーター紹介>



### 寺田俊郎（てらだとしろう） 上智大学文学部哲学科教授

イマヌエル・カントの哲学、近現代の実践哲学、教育・対話・ケアの臨床哲学的考察、哲学対話教育が専門。実践的な哲学を目指し、人と寄り添う哲学者としての活動を展開。震災後の東北や日本各地で市民レベルの「哲学カフェ」を開催し、人生に関する深い考察を引き出すファシリテートを行う。



### 河野哲也（こうのてつや） 立教大学文学部教育学科教授

哲学、倫理学、哲学対話が専門。医療組織（病院、看護学校）などで、哲学的・倫理的レベルでの集団的ダイアローグを活用して、組織の倫理的状態を向上させるための教育プログラム等を開発。また、「子どものための哲学」を小学・中学・高等学校で実践し、こどもの考える力を引き出す実践的教育を行う。



### 宮下篤志（みやしたあつし） 立教大学大学院ビジネスデザイン研究科特任教授

経営戦略、組織開発論、ダイナミック・ケイパビリティ論が専門。経営大学院で教鞭をとる一方、幅広い「考察」と「実践」ができる経営人材育成に特に力を入れており、現地・現物・現実・現場から経営を取り巻く様々な要素間関係を考察して組織学習に繋ぐ教育を実践している。

## 問うことで

## “世界の見え方”が変わる

## ～ファシリテーターより～

### ◆◆わたしたちは、「多世代哲学対話と地方創生」を目指しています◆◆

住民のみなさん同士の対話を通して、持続可能な地域づくりお手伝いする活動を行っています。子供から大人まで哲学対話を活用しながら、様々な形で地域の未来を考えていきます。哲学対話とは、先入観にとらわれず相互理解・価値創出・合意形成に向けて徹底的に意見交換する手法です。

（寺田俊郎先生 上智大学HPインタビューより）

例えば皆さんは、「友情とは何か」という問いを真剣に考えたことがあるでしょうか。

一見分かりきったことのように思えるこうした問題も、実は哲学の重要なテーマ。でも、誰もが納得する明確な答えははまだに出ていません。それでも哲学者たちは、「この問いに答えはない」「答えは人それぞれだ」として思考を終わらせることはありません。なぜなら、一つの問題を深く、深く考え抜くことで、たとえ最終的な答えは出なくとも、“世界の見え方”が変わってくる。そのことに重要な価値を見いだしているからです。問い続けることで、新たな世界観や人間観をひらいていくことができる。これこそが、哲学の最大の魅力だと私は考えています。

「問い続ける」ために、哲学が大切にしているのが「対話」です。他者と協力して、考えを発展させていく。例に挙げた「友情とは何か」という問いでも、実際に友達同士で話し合ってみれば、それに対する考え方が人それぞれ大きく異なることにきっと驚くでしょう。その驚きこそが、思考を深めていく力になるのです。

つまり、「私はこう考える」「あなたはこう考える」を大事にするのが哲学。

近年、特にヨーロッパでは、国のエネルギー政策について議論する諮問委員会などに科学者や経済学者、企業人らと並んで、哲学者が名を連ねることがあります。例えば原発の是非を考える際に、客観的なデータからは見えてこない部分に光をあて、より根本的な問いを発することが求められている際に、問題を多角的に掘り下げ、そしてときに「問い自体をも問う」という習性をもった哲学者には、議論を活性化し、より本質的なものにする経験を積んでいます。

哲学対話から、新しい発見がきっと見つかります。